

現場と子育て

西松建設株式会社
札樽道張碓出張所

● 半沢 凜 はんざわ りん



は私一人でしたがトイレやお風呂はもちろん、洗濯機も専用で用意していました。

トンネル現場での若手職員の仕事は、測量やコンクリートの受入試験、材料発注など様々ですが、「俺たちの作業を止めるな」と作業員から怒鳴られたり、作業を優先させると現場の管理ができるいないと上司から叱られたりと毎日目の前の仕事をこなすのに必死でした。毎日トンネルにこもりっぱなしのおかげで日焼けをしないことが唯一嬉しかったです。そんな生活を三年半ほど過ごしたのち妊娠が発覚し、上司に報告しました。労働基準法では妊娠は坑内作業を禁止されているため、その日の午後から引継ぎをする間もなく現場に入ることができなくなってしまった。妊娠するまで、妊娠や一年以内の経産婦がトンネル作業に従事できないことを知らなかつたため、一緒に組んでいた後輩には大変な思いをさせてしました。

産休明けは元の部署に復帰するものと思っていましたが、もちろん〇歳児を抱えたまま宿舎生活をできるわけもなく支社の現場支援の部署に復帰しました。当時はコロナ禍でしたので在宅勤務も併用していました。その後二か月ほどで新規工事が入手できることもあり、自宅から車で一時間ほどの高速道路の補修現場に従事することになりました。現場の所長や上司とは、週に一～二回現場に通い、発注者の立会がない日などは在宅勤務という働き方にしようと現場勤務を再開しました。しかし結局現場が始まるとそういう訳にもいかず、毎日通うようになっていました。保育園に連れていく朝はどうしても時間がなくて子供を急かしてしまいますが、夕方は子供と一緒にゆっくりと保育園から帰りました。たんぽぽの綿毛を探したり、水たまりの中でジャンプされたり、保育園から持ち帰る宝物（石やどんぐり）をさりげなく自然に返したり、まるで皇族かのように通行する車に何分も手を振り続けたりしました。やっと帰宅し

ー 仕事と育児

入社してすぐ新幹線トンネルの現場に配属されました。山奥の現場で、宿舎に他の職員と一緒に住んでいました。女性職員



新幹線トンネル現場の切羽の様子

とても家事などで忙しいため現場作業員さんや業者さんから仕事のことで電話連絡があつても対応できないことも多かったです。こんな状況が一ヶ月も続くと私のところには連絡がこなくなりました。仕事と育児の両立を目指す人には少しつらい状況かもしえません。現場は天候に左右される工種が多く作業変更の打ち合わせをすることがよくあります。母親としての私は雨で気温が下がるなら子供に長袖を持たせないと困つて先に考えてしまいます。100%仕事に向き合えない中では同期や歳の近い同僚どんどん差がついてしまうのを感じますが、今は子供の日々の可愛い成長にしっかりと付き合いたいと思っています。現在、第二子育休中ですが、子供に「早くして」と言わなくていいこの特別な時期を大切に過ごしたいと思います。ワークライフバランスは人によって事情や考え方が違うため単純なものではなく、多様性をいかに受け入れるかがこれから時代は大切だと思います。

私が今できること

とても仕事と育児が両立できているとは言えない私ですが、まだ社内的に数少ない産休および育休取得者、現時点ではさらに少ない施工現場に復帰した職員として意見を求められることがあります。そんな私にできることは、建設業における妊娠・出産・育児と仕事との両立について多くの人が悩みながらやつていると伝えることだと思います。妊娠出産は、人それぞれつわりの重さや産後の経過、保育園事情、実家の支援など様々な理由により状況が異なります。「あの人は産休ぎりぎ

りも家事などで忙しいため現場作業員さんや業者さんから仕事のことで電話連絡があつても対応できないことも多かったです。こんな状況が一ヶ月も続くと私のところには連絡がこなくなりました。仕事と育児の両立を目指す人には少しつらい状況かもしえません。現場は天候に左右される工種が多く作業変更の打ち合わせをすることがよくあります。母親としての私は雨で気温が下がるなら子供に長袖を持たせないと困つて先に考えてしまいます。100%仕事に向き合えない中では同期や歳の近い同僚どんどん差がついてしまうのを感じますが、今は子供の日々の可愛い成長にしっかりと付き合いたいと思っています。現在、第二子育休中ですが、子供に「早くして」と言わなくていいこの特別な時期を大切に過ごしたいと思います。ワークライフバランスは人によって事情や考え方が違うため単純なものではなく、多様性をいかに受け入れるかがこれから時代は大切だと思います。

りまで働いていたよ」や「この人はこれくらいには現場復帰していったのに」というようなことを決して周りに言わせないよう、これから産休育休をとる職員にプレッシャーがかからないようにしてあげたいと思います。また、長期育休取得を迷っている男性職員の背中を押すことができればと思います。後輩職員が私を見て、「あの人ができるのだから自分も大丈夫」と少しでも安心してもらえたなら先陣をきつて現場復帰した甲斐があります。そしていつか自分の子育てが落ち着いたとき、自分がフォローしてもらった分、助けてもらった分をその時子育てに奮闘している職員に返していけたらと思います。



こどもはバナナが大好き

株式会社フジタ 経営改革統括部
エネルギー・インフラ事業統括部
エネルギー事業推進部

石川 はるか
晴加

